

茨城県最低生計費試算調査の結果について

—新型コロナによる経済不況を抜け出すには、最低賃金を全国一律で1,500円以上に—

2020年7月27日 茨城県労働組合総連合

○現在の茨城県の最低賃金は849円である。この金額では、フルタイムで働いたとしても月額14万円にやっと届く程度である。ここから税金などを差し引くと可処分所得は10万円ほどであり、ワーキング・プア状態である。

○今回、茨城県労働組合総連合（茨城労連）では、茨城県で**労働者がふつうに暮らすために必要な費用**を科学的データにもとづいて明らかにした。

○具体的には、主に茨城労連に加盟する各単産の労働者を対象に、生活のパターンを調べる「**生活実態調査**」及び持ち物をどれくらい所有しているのかを調べる「**持ち物に関する調査**」を実施し、その結果をもとに生活に必要な費用を一つひとつ丁寧に積み上げる「**マーケット・バスケット方式**」により、ふつうに暮らすために必要な費用を算定した。

○調査には、約**1358**名が回答をしている（回収率約**19.4%**）。今回は、その中から茨城ではたらく10～30代で一人暮らしの若者**190名**分のデータの分析結果を報告するものである。

○水戸市内で**若者がふつうに一人暮らしをするためには**、男性＝**月額252,987円**、女性＝**月額251,124円**（ともに税・社会保険料込み）が必要である。これは年額に換算すると**約300万円**となる（軽自動車所有ケース）。ちなみに、昨年東京都（北区）でも同様の調査結果が公表されたが、男性＝月額249,642円、女性＝月額246,362円であった（ともに税・社会保険料込み）。

○この生計費で想定した「ふつうの暮らし」の内容は、以下のようなものである。

・水戸市茨城大近辺の25㎡の1Kのワンルームマンション・アパートに住み、家賃は35,000円（2階、エアコン付き）。中古の軽自動車（44万円）を所有し、通勤や買い物、レジャーに使用している。自動車関連費は月額約25,000円。

・冷蔵庫、炊飯器、洗濯機、掃除機などは、量販店で最低価格帯のものでそろえた。

・1か月の食費は、男性＝約42,000円、女性＝約33,000円。朝晩は家でしっかりと食べ、昼食についてはコンビニなどでお弁当を購入（1食あたり500円）。そのほか、月に2回、同僚や友人と飲み会・会食行っている（1回当たりの費用＝3,500円）。

・休日は家で休養していることが多い。1泊以上の旅行は年に2回で、その費用は年間6万円。月に4回は、恋人や友人たちと郊外のショッピングモールに行き、映画・ショッピングを楽しんでいる（1回2,000円で月に8,000円）。

○試算の月額を、賃金収入で得ようとする、**時給換算で男性＝1,456円、女性＝1,445円**（中央最低賃金審議会を用いる労働時間＝月173.8時間で除した場合）になるが、これはお盆もお正月もGWもない、非現実的な働き方である。ワーク・ライフ・バランスに配慮した労働時間で換算（月150労働時間）してみると、**男性で1,687円、女性で1,674円**となる。これまでに調査を行った21都道府県の結果と大きな差はない。つまり、**最低賃金を全国一律で1,500円以上に引き上げなければならない**という結論である。

○緊急事態宣言が発令されても休業しないで社会を支えたエッセンシャルワーカーは、最低賃金近傍で働く割合が高い。彼ら彼女らの仕事に報いるためには、最低賃金はふつうに暮らせる水準まで引き上げなければならない。いま、貧困と密を減らすことが最大のコロナ対策である。最低賃金は凍結ではなく、大幅に引き上げる局面である。